

# 2026年3月期 第3四半期決算説明資料

第3四半期決算の概要（連結）  
通期の業績見通し  
中長期的な企業価値の向上に向けて



日本光電工業株式会社

銘柄コード：6849  
2026年2月5日

# 1) エグゼクティブサマリー

## 3Q累計実績

増収減益 前年同期比 売上高 +3.5% (国内△0.9%、海外+11.3%)  
営業利益 △16.5%

- 売上高  
国内： 3Q会計で、想定よりも医療機器の設備投資に慎重な動きが見られたことから、官公立病院を中心に前年同期を下回る。AEDも代理店での在庫調整により減収  
海外： 北米、欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長。  
為替・アドテック社連結の影響を除いても好調に推移
- 営業利益： 国内での減収に加え、賃上げ対応、研究開発投資等により販管費が増加したことから、減益
- 純利益： 早期割増退職金等24億円を特別損失に計上

## 通期見通し

- 売上高 2,350億円 (前回予想から△50億円)  
国内： 前回予想から△50億円下方修正。引き続き消耗品・サービス事業、年度末に向けたITシステム商談の納品・設置に注力し、4Q会計で前年同期並みの売上確保を目指す  
海外： 円ベースでは前回予想を据え置き。実質ベースでは北米、アジア州他で前回予想を下回る見込み
- 営業利益 200億円 (前回予想から△40億円)  
売上高、粗利率が前回予想を下回る見込みのため、下方修正。  
4Q会計で、自社品販売に注力し、粗利率52%台の確保、販管費の伸びの抑制に努める

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

1

- 第3四半期累計期間では、増収減益となりました。
- 国内では、第3四半期に入り、想定よりも医療機器の設備投資に慎重な動きが見られたことから、前年同期を下回りました。  
PAD市場でのAEDの販売も代理店での在庫調整により減収となりました。
- 海外では、北米、欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長となりました。  
為替とアドテック社連結の影響を除いても好調でした。
- 営業利益は、国内での減収に加え、販管費が増加したことから、前年同期を下回りました。
- 第3四半期の実績および最近の業績動向を踏まえ、  
通期の業績予想につきましては、  
売上高を2,350億円、営業利益を200億円に見直しました。  
売上高、粗利率が前回予想を下回る見込みです。

## 2) 決算概要

(単位：百万円、単位未満切捨て)

	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減率 (%)
売上高	158,476	<b>164,013</b>	3.5
国内売上高	101,153	<b>100,192</b>	- 0.9
海外売上高	57,323	<b>63,820</b>	11.3
売上総利益 (売上総利益率)	82,431 52.0%	<b>85,086</b> 51.9%	3.2
販管費 (販管費率)	71,496 45.1%	<b>75,952</b> 46.3%	6.2
営業利益 (営業利益率)	10,935 6.9%	<b>9,134</b> 5.6%	- 16.5
経常利益	13,506	<b>11,882</b>	- 12.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,137	<b>6,408</b>	- 21.2

平均レート (円)  
1米ドル/1ユーロ 152.0/164.7 148.6/170.9

← 為替影響除く：+13%  
為替・アドテック社連結の  
影響除く：+7%

← 為替差益：20億円 → 24億円

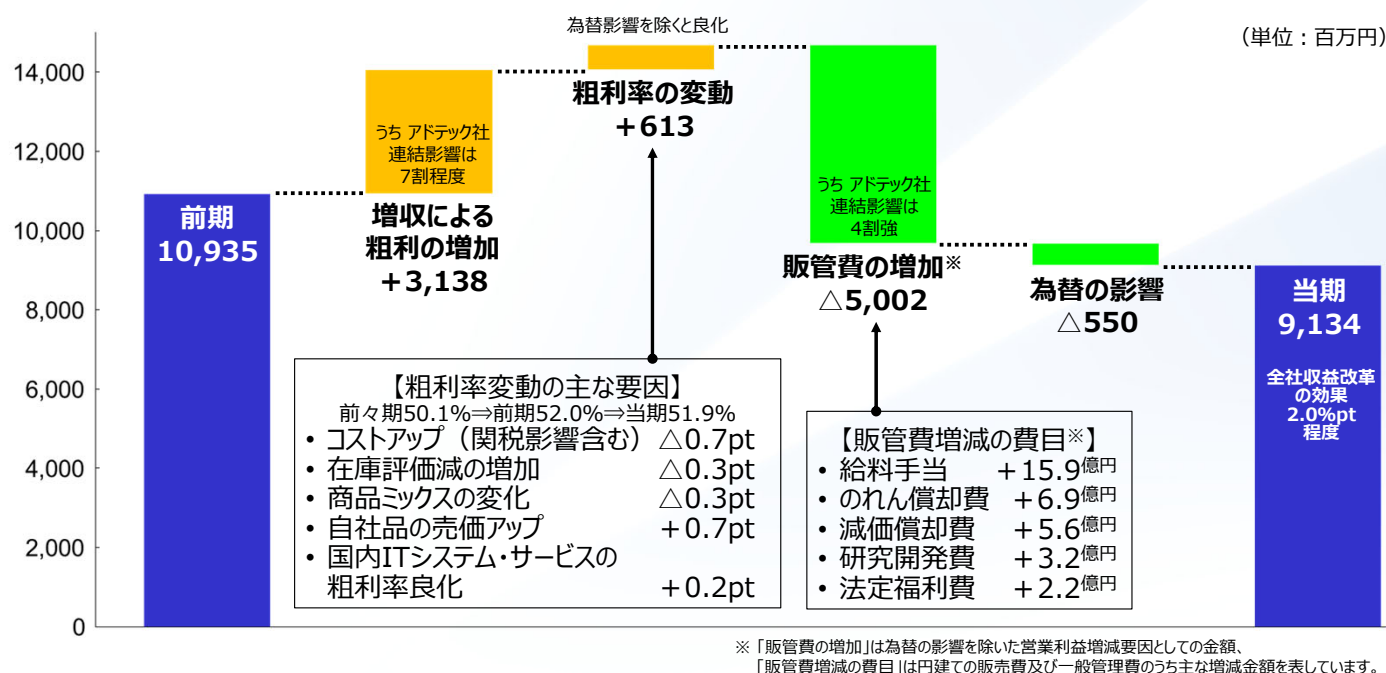
← 特別損失：  
早期割増退職金等24億円

2025/3 3Q	2026/3 3Q	増減率 (%)
55,692	<b>55,892</b>	0.4
34,909	<b>33,312</b>	- 4.6
20,782	<b>22,580</b>	8.7
30,525 54.8%	<b>28,287</b> 50.6%	- 7.3
24,704 44.3%	<b>25,895</b> 46.3%	4.8
5,820 10.5%	<b>2,392</b> 4.3%	- 58.9
11,366	<b>5,150</b>	- 54.7
7,674	<b>1,884</b>	- 75.4

149.4/162.0 152.2/178.1

- 第3四半期累計期間、第3四半期会計期間のPLはご覧のとおりです。

### 3.1) 営業利益増減の要因分析 (3Q累計)



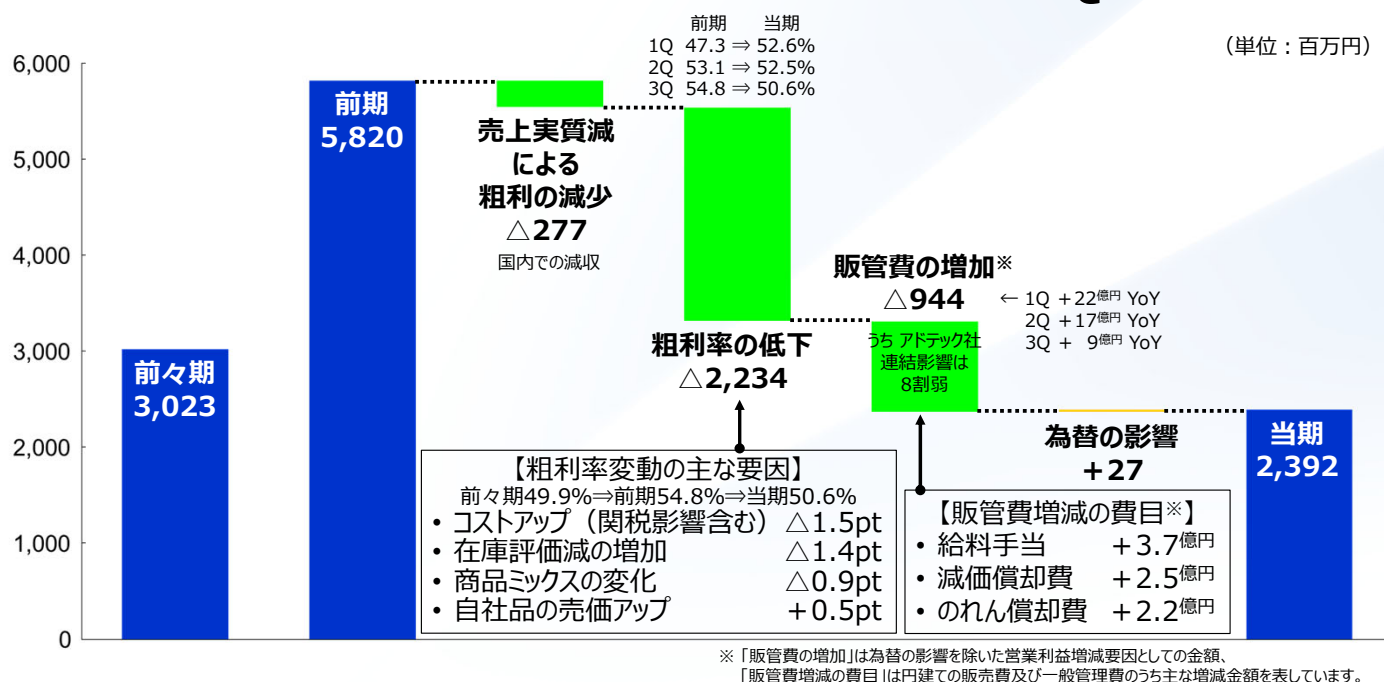
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

3

- 第3四半期累計期間での営業利益増減の要因分析です。
- 増収による粗利の増加は、31億円となりました。  
このうち、アドテック社連結の影響は7割程度です。
- 粗利率は、前年同期を0.1ポイント下回りましたが、為替のマイナス影響を除くと良化しています。自社品の売価アップ、国内ITシステム・サービスの粗利率良化が寄与しました。
- 販管費につきましては、賃上げ対応や研究開発投資により、50億円のマイナス要因となりました。アドテック社連結の影響はのれん等償却費を含め4割強です。
- 為替の影響につきましては、5億円のマイナス要因となりました。

## 3.2) 営業利益増減の要因分析 (3Q会計)



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

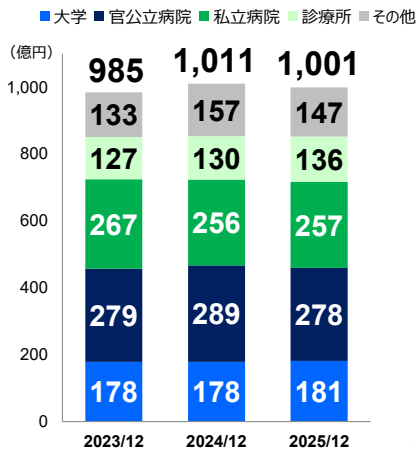
NIHON KOHDEN

4

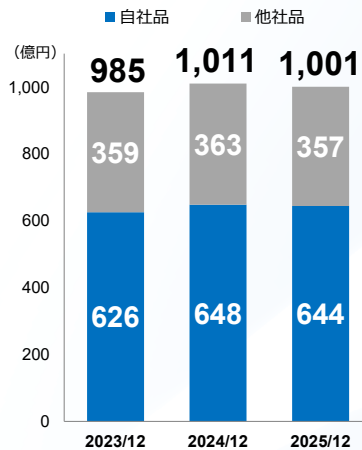
- 第3四半期会計期間での営業利益増減の要因分析です。
- 売上実質減による粗利の減少は、国内での減収が響き、2億円のマイナス要因となりました。
- 粗利率は、コストアップ、在庫評価減の増加、商品ミックスの変化等により低下したことから、22億円のマイナス要因となりました。  
前年同期の54.8%、社内計画の52%台を下回りましたが、国内外での販売価格引上げ等の取り組みは引き続き奏功しています。
- 販管費につきましては、アドテック社連結の影響を除くと、伸びの抑制につなげることができました。

## 4) 国内売上高

【市場別売上高】



【自社品/他社品売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減率 (%)
生体計測機器	25,383	26,123	2.9
生体情報モニタ	32,087	30,695	- 4.3
治療機器	22,375	21,239	- 5.1
その他	21,306	22,134	3.9
売上高合計	101,153	100,192	- 0.9

(参考)

医療機器	38,735	35,757	- 7.7
消耗品・サービス	62,417	64,435	3.2

【市場別】 官公立病院市場で減収。PAD市場でのAEDの販売は代理店での在庫調整により減少。大学、私立病院、診療所市場は堅調に推移  
 【商品群別】 **自社品/他社品**：他社品は、現地仕入品、アブレーションカテーテルが減収。自社品は、医療機器が減収、消耗品・サービスは堅調に推移  
**生体計測機器**：心臓カテーテル検査装置群が好調に推移。脳神経系群、診断情報システムも堅調。心電計群は前年同期を下回る  
**生体情報モニタ**：前年同期に好調だった医用テレメータ、送信機が減収。ベッドサイドモニタは堅調に推移  
**治療機器**：アブレーションカテーテルに加え、人工呼吸器、AEDが前年同期を下回る  
**その他**：医療機器の設置工事・保守サービス、検体検査装置・試薬が好調に推移。現地仕入品は減収

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

5

- 国内売上高は、消耗品・サービスが伸長したものの、医療機器の設備投資に慎重な動きが見られたことから、減収となりました。
- 市場別では、官公立病院市場で減収となり、PAD市場でのAEDの販売も代理店での在庫調整により減少しました。一方、大学、私立病院、診療所市場は堅調に推移しました。
- 自社品、他社品ともに減収となりましたが、自社品につきましては前々期の実績を上回って推移しました。
- 商品別では、生体計測機器、その他商品群は堅調に推移したものの、生体情報モニタ、治療機器が減収となりました。
- 生体計測機器では、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移し、脳神経系群、診断情報システムも堅調でした。
- 生体情報モニタでは、前年同期に好調だった医用テレメータ、送信機が減収となりましたが、ベッドサイドモニタは堅調に推移しました。
- 治療機器では、アブレーションカテーテルに加え、人工呼吸器、AEDが前年同期を下回りました。
- その他商品群では、医療機器の設置工事・保守サービス、検体検査装置・試薬が好調でした。

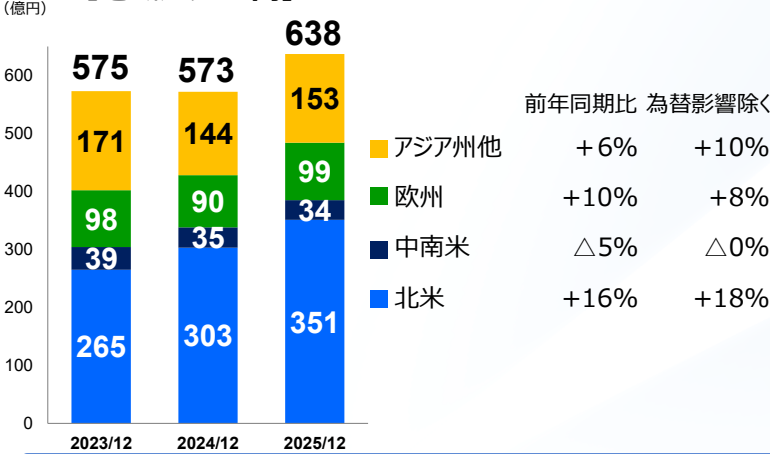
# 5) 海外売上高

【海外売上高】前年同期比+11%  
(為替影響除く: +13%  
為替・アドテック社連結の影響除く: +7%)

【海外売上高比率】

2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計
36.2%	38.9%

【地域別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)				
	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減率 (%)	為替影響 除く (%)
生体計測機器	7,569	12,443	64.4	67
生体情報モニタ	28,491	26,848	- 5.8	- 4
治療機器	15,162	18,762	23.7	26
その他	6,099	5,766	- 5.5	- 3
<b>売上高合計</b>	<b>57,323</b>	<b>63,820</b>	<b>11.3</b>	<b>13</b>
(参考)				
医療機器	38,311	39,919	4.2	7
消耗品・サービス	19,012	23,901	25.7	26

【地域別】 北米、欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長。為替・アドテック社連結の影響を除いても好調に推移  
【商品群別】 生体計測機器はアドテック社を含む脳神経系群がけん引し大幅増収。治療機器は人工呼吸器が大幅増収、AEDも二桁成長。  
生体情報モニタは、アジア州他で二桁成長も、北米、欧州を中心に好調だった前年同期を下回る

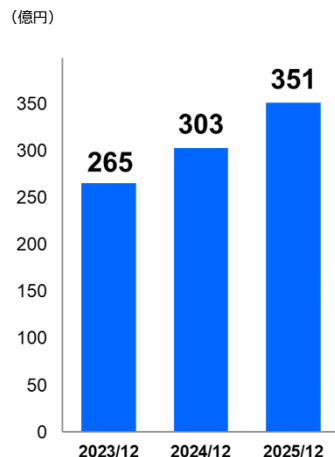
- 海外売上高は、北米、欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長となりました。為替およびアドテック社連結の影響を除いても好調でした。海外売上高比率は38.9%に上昇しました。
- 商品別では、生体計測機器が、アドテック社を含む脳神経系群がけん引し、大幅増収となりました。治療機器では、人工呼吸器が大幅増収、AEDも二桁成長となりました。生体情報モニタは、アジア州他で二桁成長となったものの、北米、欧州を中心に好調だった前年同期を下回りました。



## 5.1) 北米

- 円ベース、現地通貨ベースともに二桁成長、  
為替・アドテック社連結の影響を除いても一桁後半の増収で好調に推移
- 生体計測機器、治療機器が大幅増収。生体情報モニタは二桁成長と好調だった前年同期を下回る

前年同期比 +16%  
(為替影響除く +18%)



### 【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器** : +100%超  
為替・アドテック社連結の影響を除いても二桁成長  
在宅睡眠記録装置が大幅増収
- **生体情報モニタ** : △1桁後半  
上期に続き3Q会計でも、二桁成長と好調だった前年同期を下回る。  
商談決定プロセスに慎重な動き。センサ類など消耗品は好調に推移
- **治療機器** : +30%台後半  
人工呼吸器、AEDともに大幅増収。人工呼吸器はマスク型に加え、  
気管挿管型も好調に推移。AEDも市場シェア拡大

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

7

- 北米は、円ベース、現地通貨ベースともに二桁成長となりました。  
アドテック社連結の影響を除いても、一桁後半の増収となり、好調でした。
- 商品別では、  
生体計測機器は、アドテック社連結の影響を除いても二桁成長となりました。  
競合他社の撤退もあり、在宅睡眠記録装置が大幅増収となりました。
- 生体情報モニタは、上期に続き第3四半期においても、二桁成長と好調だった  
前年同期を下回りました。公的医療保険の予算削減案もあり、医療機関における商談  
決定プロセスに慎重な動きが見られます。  
一方、センサ類など消耗品は好調に推移しました。
- 治療機器は、人工呼吸器、AEDともに大幅増収となりました。  
人工呼吸器はマスク型に加え、気管挿管型も好調に推移しました。  
AEDも市場シェアを伸ばすことが出来ました。

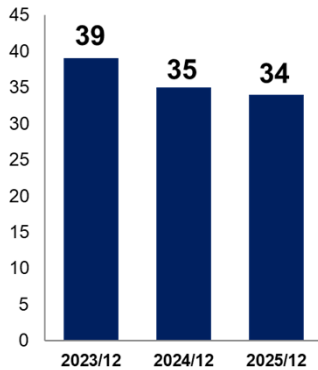


## 5.2) 中南米

- 3Q累計：メキシコを中心に減収
- 3Q会計：パラグアイでの大口商談の受注が寄与し、円ベース、現地通貨ベースともに増収

前年同期比△5%  
(為替影響除く△0%)

(億円)



### 【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器**： △10%台半ば  
脳神経系群が前年同期を下回る。心電計群は好調に推移
- **生体情報モニタ**： △10%台半ば  
メキシコを中心に減収
- **治療機器**： +20%台前半  
パラグアイでの大口商談を受注した人工呼吸器が大幅増収。  
AEDも二桁成長
- **その他**： +1桁半ば  
メキシコでの医療機器の保守サービスが伸長

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

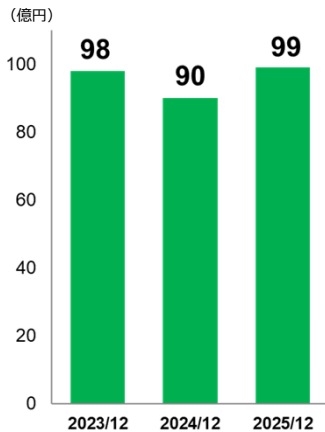
8

- 中南米では、メキシコを中心に減収となりました。  
第3四半期会計期間では、パラグアイでの大口商談の受注が寄与し、  
円ベース、現地通貨ベースともに増収となりました。  
第4四半期会計期間でも、二桁成長を見込んでいます。
- 商品別では、治療機器は好調に推移したものの、  
生体情報モニタ、生体計測機器が減収となりました。

## 5.3) 欧州

### ● 3Q累計：イタリア、トルコ、オランダを中心に好調に推移

前年同期比+10%  
(為替影響除く+8%)



#### 【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

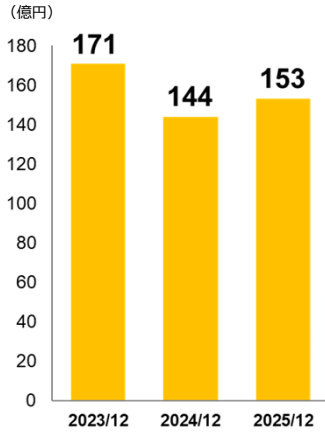
- **生体計測機器**： +20%台半ば  
脳神経系群がアドテック社連結の影響を除いても好調に推移
- **生体情報モニタ**： △1桁半ば  
ドイツを中心に減収
- **治療機器**： +20%台後半  
人工呼吸器、除細動器が大幅増収、AEDも二桁成長
- **その他**： △10%台後半  
検体検査装置・試薬が減収

- 欧州では、イタリア、トルコ、オランダを中心に好調に推移しました。
- 商品別では、治療機器、生体計測機器が大幅増収となりました。  
一方、生体情報モニタ、その他商品群は前年同期を下回りました。

## 5.4) アジア州他

- 3Q累計：東南アジア（タイ、ベトナム）、中近東・アフリカ（モロッコ、南アフリカ）で好調に推移
- 3Q会計：法規制対応の遅れもあり、前年同期を下回る

前年同期比+6%  
(為替影響除く+10%)



### 【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器**： +10%台後半  
脳神経系群、心電計群ともに好調に推移
- **生体情報モニタ**： +20%台前半  
モロッコで大口商談を獲得、東南アジア、インドで好調に推移
- **治療機器**： +1桁後半  
除細動器が好調に推移、AEDも堅調
- **その他**： △1桁半ば  
検体検査装置が減収、試薬は好調に推移

- アジア州他は、東南アジア、中近東・アフリカで好調に推移しました。  
第3四半期会計期間では、法規制対応の遅れもあり、中近東・アフリカを中心に前年同期を下回りました。
- 商品別では、生体情報モニタ、生体計測機器が二桁成長となり、治療機器も好調に推移しました。一方、その他商品群は、前年同期を下回りました。

## [参考] 商品群別売上高・粗利率

(単位：百万円)

	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減率 (%)
生体計測機器	32,953 (41%)	<b>38,566</b> (44%)	17.0
生体情報モニタ	60,579 (65%)	<b>57,543</b> (64%)	- 5.0
治療機器	37,538 (44%)	<b>40,001</b> (44%)	6.6
その他	27,405 (47%)	<b>27,901</b> (48%)	1.8
売上高合計	158,476 (52%)	<b>164,013</b> (52%)	3.5

(参考)

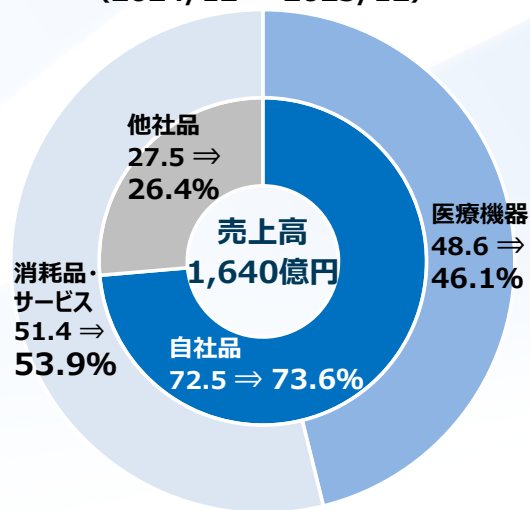
医療機器	77,046 (54%)	<b>75,677</b> (53%)	- 1.8
消耗品・サービス	81,430 (50%)	<b>88,336</b> (51%)	8.5

※ 表の括弧内は、粗利率を示しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

商品群別売上構成比  
(2024/12 ⇒ 2025/12)



- 商品群別の売上高、粗利率はご覧のとおりです。
- 自社品売上高比率、消耗品・サービス売上高比率ともに上昇しました。

# [参考] 商品群別売上高の内訳

(単位：億円、単位未満切捨て)

生 体 計 測 機 器	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計
脳 神 経 系 群	74	116
心 電 計 群	45	44
心臓カテーテル検査装置群	131	141
診 断 情 報 シ ス テ ム 群	35	37
そ の 他 ※	41	47

※その他には、他社製の生体計測機器を含みます。

治 療 機 器	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計
医 科 向 け 除 細 動 器	58	60
A E D	171	181
ペ ー ス メ ー カ ・ I C D	18	19
人 工 呼 吸 器	64	81
そ の 他	62	56

生 体 情 報 モ ニ タ	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計
生 体 情 報 モ ニ タ 合 計	605	575
うち 臨床情報システム群	29	30

そ の 他	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計
検 体 検 査 装 置	95	94
画 像 診 断 装 置 他 ※	178	184

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。

## 6) 財政状態

(単位：百万円)

	前期末 2025/3	当3Q末 2025/12	増減額		前期末 2025/3	当3Q末 2025/12	増減額
流動資産	183,085	170,128	- 12,957	流動負債	72,296	46,717	- 25,579
棚卸資産	56,174	62,033	5,858	有利子負債	26,030	50	- 25,980
有形固定資産	29,270	31,798	2,527	固定負債	4,685	27,511	22,826
無形固定資産	27,653	25,526	- 2,127	有利子負債	—	22,950	22,950
投資その他資産	18,266	19,309	1,042	純資産	181,294	172,534	- 8,760
資産合計	258,276	246,762	- 11,513	負債・純資産合計	258,276	246,762	- 11,513

棚卸資産回転月数 (ヵ月)	6.2	6.7		自己資本比率	69.5%	69.9%	
------------------	-----	-----	--	--------	-------	-------	--

### 【流動資産の減少の理由】

受取手形及び売掛金                   △137億円  
 棚卸資産                                   + 58億円  
 (PLM/MESシステム※、鶴ヶ島新工場の稼働に備え、  
 一時的に製品在庫を積み増し           + 43億円)

### 【流動負債の減少の理由】

有利子負債（短期借入金）           △259億円

### 【固定負債の増加の理由】

有利子負債（長期借入金）           + 229億円

※PLM（Product Life-cycle Management）：製品ライフサイクル管理、MES（Manufacturing Execution System）：製造実行システム。

- 財政状態はご覧のとおりです。
- 棚卸資産につきましては、PLM/MESシステム、鶴ヶ島新工場の稼働に備え、一時的に製品在庫を積み増していることから、回転月数は6.7ヵ月となりました。



## 7) キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減額
I 営業C F	6,291	12,477	6,185
II 投資C F	- 23,233	- 6,472	16,760
FCF	- 16,941	6,004	22,945
III 財務C F	4,585	- 7,038	- 11,624
換算差額	536	1,062	526
増減額	- 11,818	28	11,847
期末残高	38,058	43,089	5,030

	2024/12	2025/12	増減
税金等調整前四半期純利益	132億円	98億円	△33億円
売上債権の増減額 (増加：△)	100億円	154億円	+54億円
法人税等の支払額	△96億円	△75億円	+20億円

	2024/12	2025/12	増減
有形固定資産の取得による支出	△35億円	△46億円	△11億円
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△188億円	—	+188億円

	2024/12	2025/12	増減
短期借入金の純増減額 (減少：△)	252億円	△259億円	△512億円
長期借入による収入	—	255億円	+255億円
預け金の増減額 (増加：△)	△76億円	72億円	+149億円
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	—	△74億円	△74億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

14

- キャッシュ・フローはご覧のとおりです。期末残高は430億円となりました。

## 8) 設備投資と研究開発費

(単位：百万円)

	2025/3 3Q累計	2026/3 3Q累計	増減額	2025/3 実績	2026/3予想 期初	2026/3予想 11月10日修正
設備投資	4,984	5,853	868	9,519	9,400	9,400
減価償却費	2,959	3,393	434	4,067	4,900	5,000
研究開発費	4,948	5,271	322	6,826	7,200	7,400

### ● 2026/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

PLM/MES※システムの導入 設備投資額：約30億円

< 23/3：3億円、24/3：5億円、25/3：9億円  
26/3：8億円、27/3～：5億円

PLMシステム：2025年9月稼働  
MESシステム：2025年11月稼働

鶴ヶ島新工場の建設

総投資額：約110億円

< 23/3：23億円（土地取得）  
～25/3：41億円、26/3：32億円（建屋・設備等）  
27/3～：14億円（設備等）

着工：2024年7月  
建屋竣工：2025年10月  
稼働：2026年3月予定

※PLM（Product Life-cycle Management）：製品ライフサイクル管理、MES（Manufacturing Execution System）：製造実行システム。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

15

- 通期の設備投資、減価償却費、研究開発費の予想に変更はありません。

## 9) 通期業績見通し

	2025/3 前期実績	2026/3予想 期初	2026/3予想		増減率 (%)
			11月10日修正	2月5日修正	
売上高	225,424	240,000	240,000	235,000	4.2
国内売上高	145,237	149,800	149,400	144,400	- 0.6
海外売上高	80,187	90,200	90,600	90,600	13.0
売上総利益 (売上総利益率)	117,157 52.0%	126,000 52.5%	126,100 52.5%	122,100 52.0%	4.2
販管費 (販管費率)	96,444 42.8%	102,000 42.5%	102,100 42.5%	102,100 43.4%	5.9
営業利益 (営業利益率)	20,713 9.2%	24,000 10.0%	24,000 10.0%	20,000 8.5%	- 3.4
経常利益	20,373	24,000	24,000	22,000	8.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,098	15,000	12,500	12,500	- 11.3
海外売上高比率	35.6%	37.6%	37.8%	38.6%	

(単位：百万円)

← 為替影響除く：+14%  
為替・アドテック社連結の  
影響除く：+8%

平均レート (円) 1米ドル/1ユーロ 152.4/163.5 140/156 146/167 150/174

※ 第4四半期の前提為替レートは、154円/米ドル、184円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

16

- 第3四半期の実績および直近の業績動向をふまえ、通期の業績予想を見直しました。
- 通期売上高2,350億円、国内売上高は1,444億円、海外売上高は906億円を見込んでいます。

## 10) 通期業績見通し 修正のポイント

<b>通期売上高</b> <small>(前回予想から 50億円減)</small>	<b>国内売上高</b> <small>(同50億円減)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回予想から50億円下方修正し、前期比8億円減の見通し               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院・診療所向け：想定よりも予算の抑制・延期                    前回予想：+41億円 ⇒ 今回予想：+2億円 (△39億円)</li> <li>・ AED：代理店での在庫調整 ※ 前期 63,800台 → 当期 58,100台                    前回予想：+1億円 ⇒ 今回予想：△10億円 (△11億円)</li> </ul> </li> <li>● 4Q：消耗品・サービス事業、年度末に向けたITシステム商談の納品・設置に注力し、前年同期並みの売上確保を目指す</li> </ul>
	<b>海外売上高</b> <small>(据え置き)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北米で生体情報モニタの商談決定プロセスに慎重な動きが見られるほか、アジア州他を中心に法規制対応等に時間を要しているものの、期末に向けて出荷・納品・設置に全社一丸となって注力</li> </ul>
<b>営業利益</b> <small>(同40億円減)</small> <b>経常利益</b> <small>(同20億円減)</small> <b>純利益</b> <small>(据え置き)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売上高、粗利率が前回予想を下回る見込みのため、下方修正。                販管費は前回予想を据え置き</li> <li>・ 4Q：増収増益を目指す。自社品販売、全社収益改革に注力し、粗利率52%台の確保、販管費の伸びの抑制に努める</li> </ul>	

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

17

- 国内では、大学、官公立病院の予算執行が年度末に集中する傾向にありますが、病院経営の悪化に伴い、想定していたよりも予算の抑制や延期が見られます。AEDの代理店での在庫調整もあり、前回予想を下回る見通しです。引き続き消耗品・サービス事業の拡大に注力するとともに、医療の質向上と効率化に寄与する医療機器やITシステムの商談獲得に注力し、第4四半期では前年同期並みの売上確保を目指します。生体情報モニタは増収に転じる見込みです。
- 海外では、為替が前回の想定よりも円安基調にあるものの、北米において生体情報モニタの商談決定プロセスに慎重な動きが見られるほか、アジア州他を中心に法規制対応等に時間を要しています。引き続き、期末に向けた出荷・納品・設置に全社一丸となって取り組みます。北米の生体情報モニタの受注は前年同期を上回って推移しており、第4四半期では増収を見込んでいます。
- 利益面では、全社収益改革の推進により販管費の伸びの抑制に努めるものの、売上高、粗利率が前回予想を下回る見込みであることから、営業利益は200億円となる見通しです。経常利益は為替差益の計上により220億円、純利益は125億円を見込んでいます。

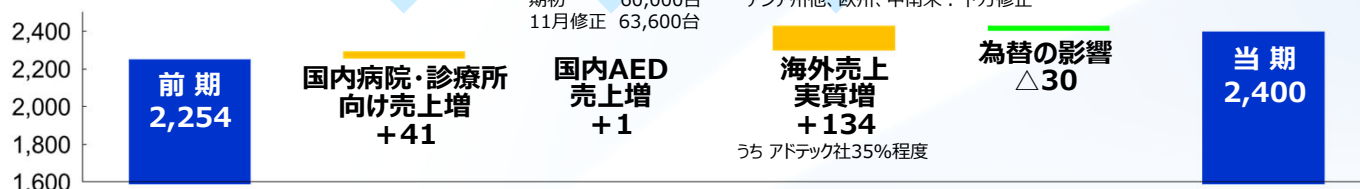
# [参考] 売上見通しの要因分析

(単位：億円)

## 【期初予想】



## 【11月修正予想】



## 【2月修正予想】



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

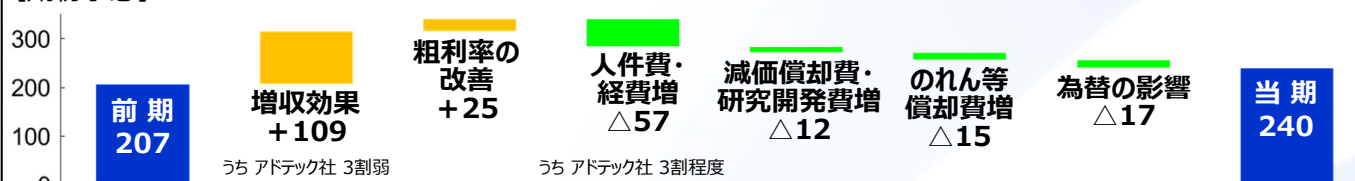
NIHON KOHDEN

18

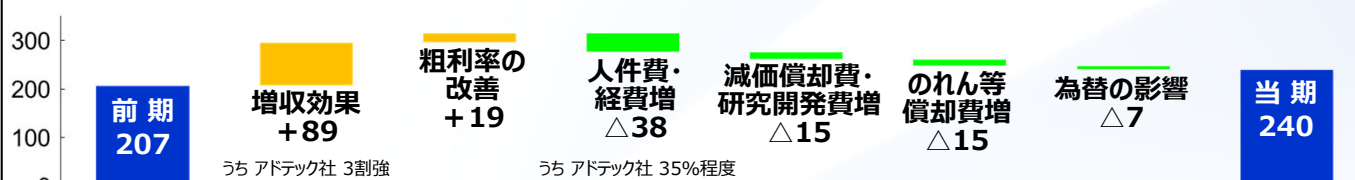
# 【参考】 営業利益見通しの要因分析

(単位：億円)

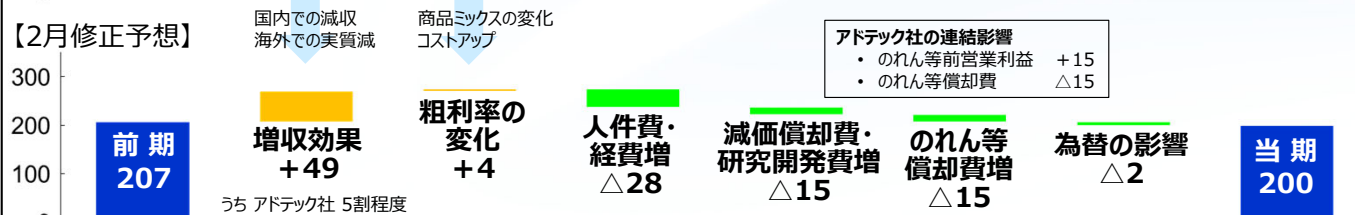
## 【期初予想】



## 【11月修正予想】



## 【2月修正予想】





# 【参考】地域別/商品群別売上高見通し/為替の影響

## 【地域別海外売上高】

(単位：百万円)

		2025/3 実績	2026/3予想 期初	11月10日修正	2月5日修正	増減率 (%)
北	米	41,900	47,500	49,500	49,500	18.1
中	南 米	5,388	5,900	5,700	5,700	5.8
欧	州	12,554	13,400	13,200	13,200	5.1
アジア	州 他	20,344	23,400	22,200	22,200	9.1
海 外 計		80,187	90,200	90,600	90,600	13.0

## 【商品群別売上高】

	2025/3 実績	2026/3予想 期初	2026/3予想			増減率 (%)
			11月10日修正	2月5日修正	構成比 (%)	
生 体 計 測 機 器	46,874	53,200	54,600	54,100	23.0	15.4
生 体 情 報 モ ニ タ	84,965	89,000	86,600	85,600	36.4	0.7
治 療 機 器	53,184	56,600	58,100	55,300	23.5	4.0
そ の 他	40,400	41,200	40,700	40,000	17.1	- 1.0
売 上 高 合 計	225,424	240,000	240,000	235,000	100.0	4.2

(参考)

医 療 機 器	113,304	120,800	117,600	114,700	48.8	1.2
消 耗 品 ・ サ ー ビ ス	112,119	119,200	122,400	120,300	51.2	7.3

## 為替感応度の概算値（年間）

		売上高	営業利益
米	ド ル	4.2億円	1.1億円
ユ	ー ロ	0.6億円	0.2億円

# 中長期的な企業価値の向上に向けて

# 中期経営計画 3つの指標・6つの重要施策

全社収益改革を実行することで、成長領域への投資を本格化し、  
グローバルメドテック企業への変革を加速

## ①成長性

売上高CAGR  
(24/3-27/3期)

5%

製品競争力  
の強化

北米事業の成長  
に注力

## ②収益性

営業利益率 (27/3期)

15%

全社収益改革  
の実行

グローバルサプライチェーン  
の進化

## ③資本効率性

ROE (27/3期)

12%

日本光電版ROIC  
の導入

キャッシュ・コンバージョン・  
サイクルの短縮

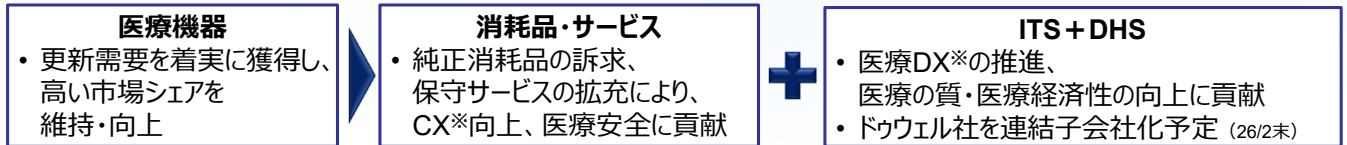
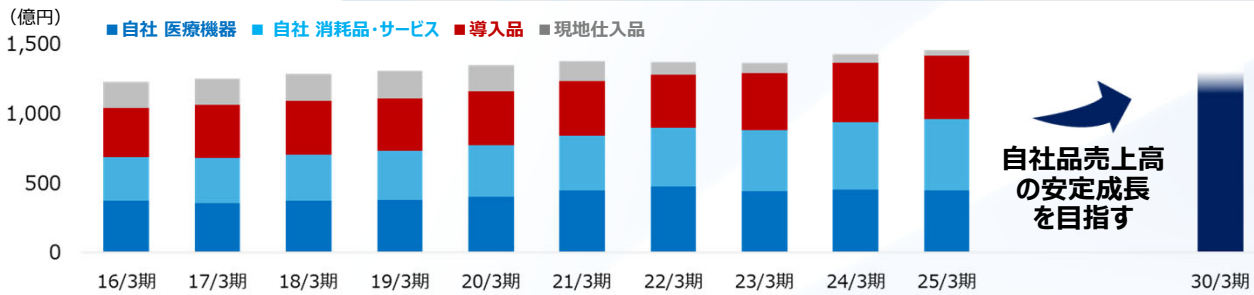
サステナビリティ経営の実践

医療課題

環境課題

社会課題

- 長期ビジョンおよび中期経営計画での取り組みにより、成長のモメンタムが高まっているということをこれまでにお話ししてきました。特に、医療DXに対する需要が世界中で高まっていること、また競合他社の撤退により人工呼吸器や脳神経機器に追い風が吹いています。
- 一方で、中長期的には、設備投資を中心とした事業モデルから、消耗品・サービス・DHS製品を中心としたソリューション型事業、あるいは、リカーリングビジネスモデルへの転換を推進しているものの、現時点では病院の設備投資や政府予算などの動向による影響を受けるため、四半期ごとの業績ボラティリティが大きいことが当社の課題であると捉えています。
- 外部・内部要因により、売上が想定どおりに伸びていないことにより、販管費率やキャッシュコンバージョンサイクルなどの指標の改善が進まず、収益改革の効果を数値上から読み取れないことも、収益改善の予見性を低くしている要因であると考えています。
- したがって、中長期的な企業価値の向上には、中期経営計画に掲げる3つの指標の中でも、成長性の重要施策に注力し、売上の持続的な成長と全社収益改革の効果発現をしっかりと組み合わせることが必要不可欠であると考えています。



【アボット製品の業務引継ぎ】 25/12末までに15%程度完了、26/3末までに65%程度完了予定

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

※ CX : カスタマーエクスペリエンス, DX : デジタルトランスフォーメーション。 23

- 国内では、足元で想定以上に病院における設備投資が抑制傾向にあるものの、過去10年間は安定成長を継続しているだけでなく、消耗品・サービスを含む自社品売上高は持続的に増えており、収益性が向上しています。
- 特に、アボット製品取り扱い終了により生まれるリソースを最大限活用し、自社品売上高の一層の成長につなげていきます。
- 引き続き、医療機器については高い市場シェアを維持・向上するとともに、消耗品・サービス事業の拡充、さらに、医療DXの要となるITS + DHS事業の強化を通して、カスタマーエクスペリエンスを向上し、持続的な安定成長を目指します。

市場成長率  
1桁半ば

Phase II 目標  
売上高CAGR 11%

16/3期-25/3期  
10カ年売上高CAGR  
+10%

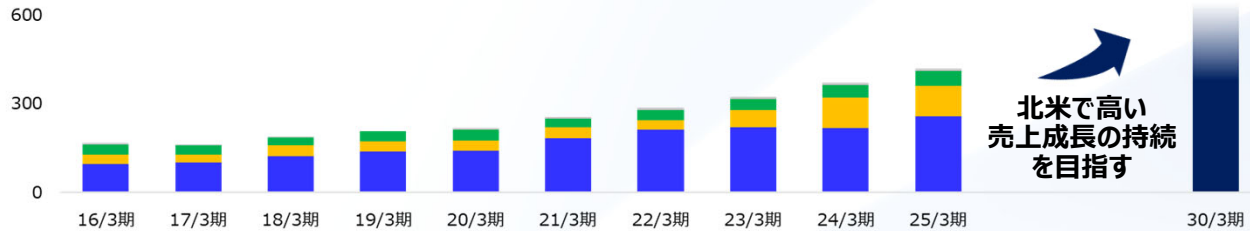
治療機器  
+13%

生体情報モニタ  
+10%

生体計測機器※  
+3%

(億円) ■ 生体計測機器 ■ 生体情報モニタ ■ 治療機器 ■ その他

※26/3期～アドテック社連結。



北米で高い  
売上成長の持続  
を目指す

## 生体計測機器

- 高い市場シェアを有する脳神経機器・アドテック社のシナジー創出
- 在宅睡眠記録装置の需要増

## 人工呼吸器

- 大手IDN/GPO※1からの新規契約獲得
- 市場シェアを拡大

## 生体情報モニタ

- DHS※2製品による差別化提案を強化し、市場シェアを拡大
- 人工呼吸器採用施設への導入提案

## 収益性：アドテック社を除く既存事業においても黒字化の見込み

※1 IDN (Integrated Delivery Network) : 総合医療ネットワーク、GPO (Group Purchase Organization) : グループ購買組織。 ※2 DHS : デジタルヘルスソリューション。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

24

- 成長ドライバーである北米では、引き続き高成長の持続を目指します。
- 北米では過去10年間でCAGR10%を達成しており、特に人工呼吸器の投入後は治療機器事業が急速に拡大しています。
- アドテック社の買収のみならず、競合他社の撤退もあり、脳神経機器の需要も高まっています。
- DHS製品のラインアップ拡充により、大手IDNを対象としたモニタリングシステムのソリューション力が向上しています。足元では、商談プロセスに慎重な動きは見られるものの、人工呼吸器をトリガーとした新規顧客の開拓も進んでおり、生体情報モニタの持続的な市場シェア拡大を目指します。

27/3期  
目標営業利益率改善  
5%pt

- ✓ 25/3期：0.8%pt ⇒ 26/3期：2.5%pt（前期比+1.7%pt）
- ✓ 5%pt改善に向けた施策の積み上げは完了、7割程度の効果発現の見込み、引き続き3つの領域における施策展開を加速

人員生産性の向上

各国許認可申請にかかる  
技術文書の翻訳業務を効率化

- ✓ 生成AI翻訳ツール等を自社開発、業務フローを刷新



## 国際物流業務を効率化

- ✓ 貿易業務クラウドサービスを導入し、物流を可視化



経費の削減

## 国内事業所を移転・統廃合

- 所沢事業所
- 国内拠点  
(販売・物流)

5フロア

4フロア

年間  
2億円  
削減

80カ所

77カ所

## ITコストの削減

- サーバ・通信キャリア契約の最適化
- 社内ITシステム開発費用の抑制
- クラウド利用料の見直し





年間  
1～2億円  
削減

- 収益体質を改善するための全社収益改革においては、人員生産性の向上や経費の削減においても、着実に効果が生まれ始めています。
- 人員生産性の向上においては、各国の許認可申請に必要な翻訳業務や国際物流業務の効率化によって、ご覧のような実績が出ています。
- 経費についても、国内事業所の移転・統廃合や社内IT関連の契約や利用料の見直しにより、数億円単位のコスト削減が実現しています。
- 売上の経営目標値からの乖離、また想定を上回る物価や賃金の上昇等の影響があるものの、全社収益改革では引き続き営業利益率5%ポイント改善の達成を目指します。



# 資本政策の方針

健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けて投資、株主還元を充実

<div>①将来の企業成長に向けた投資</div> <div>Phase II : 研究開発投資 235億円程度 設備投資 250億円程度 成長投資・M&amp;A 300億円以上</div>	<div><div><div>・生体情報モニタ、人工呼吸器、デジタルヘルスソリューションに積極投資</div><div>・鶴ヶ島新工場の建設、PLM/MESシステムや生成AIなどコーポレートDXの推進、グローバルサプライチェーンマネジメントの進化のために設備投資</div><div>・アドテック社を完全子会社化、ドウウェル社を連結子会社化予定 (26/2末)</div></div></div>
	<div><div><div>研究開発</div><div></div></div><div><div>設備投資</div><div></div></div><div><div>成長投資 M&amp;A</div><div></div></div><div><div>人財育成</div><div></div></div></div>
<div>②株主還元の充実</div> <div>Phase II : 280億円以上</div> <div>※投資計画の進捗によっては追加の株主還元も検討</div>	<div><div>配当</div><div>業績の伸長に応じ、安定的な増配</div><div>年間配当金 (予想) 26/3期 32円 (連結配当性向 : 41.8%)</div></div> <div><div>自己株式取得</div><div>今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施</div><div>自己株式取得 : 50億円 (～26/3末) うち 11億円 (～25/12末)</div></div> <div><div>目標 : 連結総還元性向 <b>35% 以上</b></div><div>自己株式保有 : 857万株 (25/12末: 5.0%) 従業員株式給付信託の保有株式含む</div></div>
<div>③健全な財務基盤</div>	<div>医療機器の安定供給体制を確保するため、強固な財務基盤を維持</div>

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

26

- 資本政策につきましては、ご覧のとおりです。
- 株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置付けており、健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けた投資と株主還元の充実を図ることを基本方針としています。
- 今期は50億円を上限とする自己株式の取得を進めています。
- 第3四半期が外部・内部要因により国内外ともに想定以上に低調に推移していることから、通期見通しを引き下げなくてはならないことは大変残念ですが、第4四半期では回復を目指し、中期経営計画の最終年度につなげていきたいと考えています。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。

同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おさください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003